

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション2：海洋環境の保全

Photo credit: Nick Hall

MIHARI：小規模漁業の持続的管理のための沿岸コミュニティのネットワーク作り

マダガスカル

1) 当プロジェクトの主眼点

MIHARI ネットワーク（「MIHARI」とは、「MItantana HArena an-dRanomasina avy eny Ifotony」の略）は、沿岸コミュニティを共に海洋資源管理に参加させることを目指す基盤であり、それらのコミュニティを支援する団体である。マダガスカル全域の孤立した沿岸コミュニティをつなぐための手段として設立された本ネットワークにより、コミュニティリーダーらは、リーダー同士の学習を通じて、アイデアや成功モデルを共有し、国家開発計画において、小規模漁師の利益を代表することが可能となる。

2) 参加組織おとびその他のパートナー

現在、本ネットワークには、マダガスカル島海底の 12%以上に相当する 12,000 km²以上にわたるマダガスカルの 7 つ地域圏（すなわち、アッチモ=アンドレファナ、アヌシ、ディアナ、ブエニ、アナランジロフォ、メラキー、メナベ）に位置する 100 以上の個々の地域主導型管理海域（LMMA）が含まれている。本ネットワークのパートナーは下記で構成されている。ブルー・ベンチャーズ、世界自然保護基金（WWF）、野生動物保護協会（WCS）、コンサベーション・インターナショナル、環境管理支援事務所（SAGE）、アクアティック・サービス、アザファディ/SEED マダガスカル、開発・環境法センター（DELIC）、ファンンビー、アシティ・マダガスカル、リーフ・ドクター、ホンコ・マングローブ・コンサベーション、ノージー・ハラマダガスカル国立公園、コミュニティ・センタード・コンサベーション、PAGE-GIZ、セタマダ、ミズーリ植物園、グレット。政府省庁、研修施設、研究機関も本ネットワークに参加している。

MIHARI ネットワークの起源は、2003 年まで遡ることができる。当時、コミュニティのニーズに応じて、漁業コミュニティと共に活動していた NGO が、マダガスカルで LMMA のコンセプトを展開し始めた。LMMA は、沿岸海域の管理規定を策定および実行する権限を持つ沿岸コミュニティが、その全てあるいは大半を管理する沿岸海域のことである。しかし、それらの沿岸海域が、辺ぴな沿岸地域に位置しているため、マダガスカルの LMMA 実施コミュニティの大半が、他の LMMA 責任者らとコミュニケーションを取る機会が限られていることが明らかになった。太平洋 LMMA ネットワークから着想を得て、マダガスカル初の LMMA 国家フォーラムが 2012 年 6 月に開催され、18 の LMMA からコミュニティの代表者らが集まり、代表者同士の学習と経験の共有を通じて、このような孤立問題に取り組んだ。このイベントから、マダガスカルの LMMA 国家ネットワークである MIHARI が誕生した。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

本ネットワークの中心的活動は、漁業コミュニティ間の相互訪問を調整することと、LMMA 責任者フォーラムを開催することである。漁師の交流は、漁業管理慣行とガバナンスの普及における強力な手段であり、管理努力におけるリーダーシップと取り組みを構築する手助けとなる。その上、MIHARI の定期フォーラムでは、マダガスカル沿岸全域から LMMA を代表するコミュニティリーダーらが集まる。これらのフォーラムは、地域レベルおよび国レベルの両方で開催される。これらのフォーラムにより、リーダーらは、経験や成功談、直面した課題を共有し、LMMA コミュニティにおいてコミュニティ精神や連帯感を育むことができる。また、フォーラムに参加することにより、コミュニティリーダーらは、政府当局者と面会し、彼らの問題や期待について話し合い、資源の管理方法を改善するためのアドバイスを得る機会が与えられる。これまでに 3 回の国家年次フォーラムと 5 回の地域フォーラムが開催された。今年、4 つの新しい地域フォーラムが、同様の内容でグループコミュニティに対して開催される予定である。これらのイベントの他に、地元のラジオ・新聞を通じた現行のコミュニケーション手段もまた、定期的なコミュニケーションを維持し、話を共有するために開発されているところである。

国家政策レベルでは、MIHARI ネットワークは、小規模漁師らの利益を代表して、国の新しい漁業政策と保護区域政策に貢献した。また、本ネットワークは、LMMA の法的地位を強化するための法整備を、政府省庁と共に行っている。

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

能力開発の維持に関して、本ネットワークは下記の課題に直面している。

- 一部の LMMA コミュニティの教育レベルが低いため、高度で専門的なテーマを学習する能力が限られていること。
- 効果的な情報交換が限られていること。MIHARI フォーラムや相互訪問に参加した後、全ての LMMA 代表者が、学んだことをコミュニティで共有したり、報告したりできているわけではないこと。
- LMMA コミュニティの支援団体への依存度が高いこと。
- LMMA のための持続可能な基金が不足しているため、全ての LMMA コミュニティがフォーラムや交流に参加することができず、他の LMMA から学んだ知識をコミュニティが再現できるように支援する過程が妨げられていること。

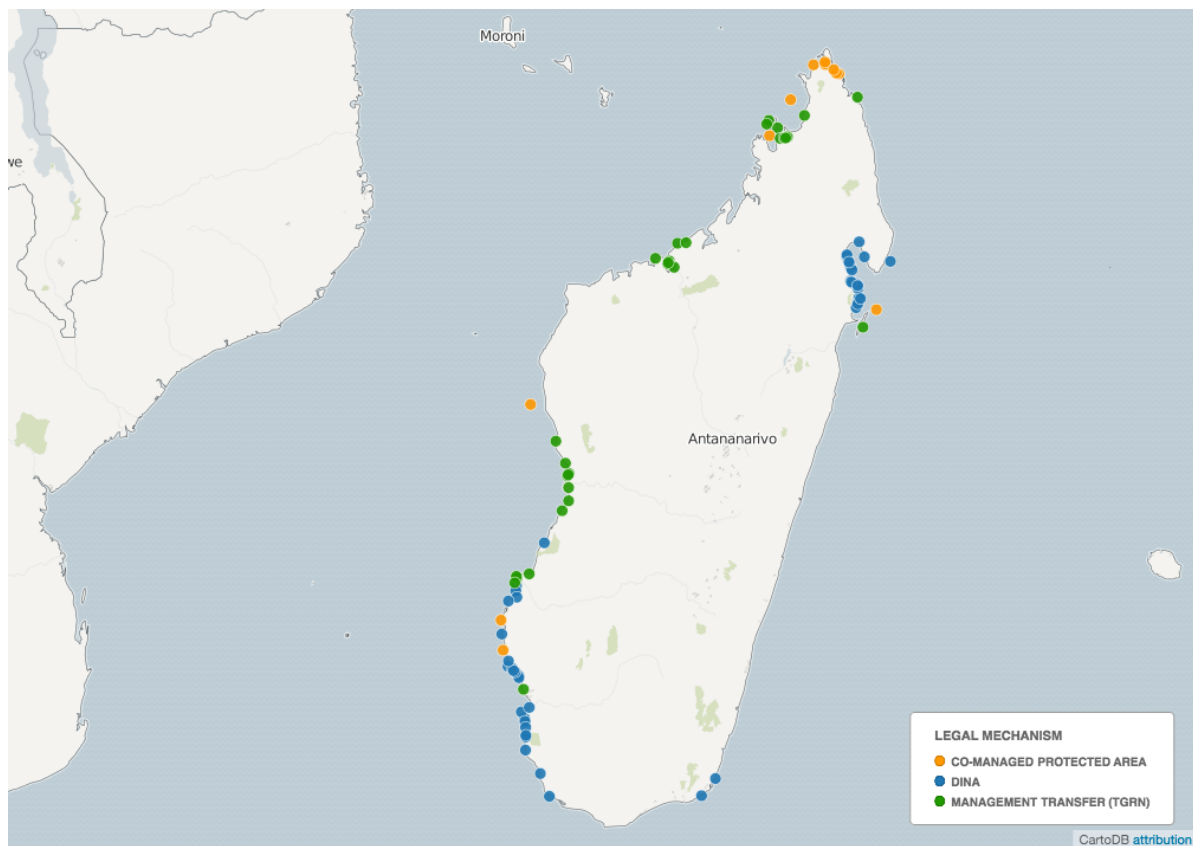
5) このプロジェクトの次の段階

MIHARI ネットワークの次の発展段階における優先事項は、コミュニティ責任者の間で本ネットワークの取り組みと当事者意識を強化し続け、LMMA 団体の間でネットワーク作りと学習交流を促進し続ける一方で、長期にわたる本ネットワークの能力と持続性を確立することである。そのために、下記を含む戦略を策定した。

- 下記のような、優先的テーマにおいて、専門家指導者らを任命することにより、コミュニティリーダーの能力開発に焦点を当てる。優先的テーマとは、民間部門が参加する漁業管理手段および保全、ガバナンスとリーダーシップ、コミュニケーション、法律、気候変動である。
- 将来、自分自身のコミュニティで指導者となる LMMA リーダーの長期研修を行う。
- 「孤立した」LMMA や、技術パートナーから支援をあまり受けられない現場へ支援を行う。

- 他地域の経験から学び、世界規模の LMMA 活動に取り組む。
- 本ネットワークおよび LMMA 開発にコミュニティを積極的に参加させる。
- 強固で支えとなる地域海洋管理の法的枠組みを確保するために、マダガスカル政府と共に密接に連携して取り組む。
- 地域レベルで活動の勢いを維持し、調整とコミュニケーションを促進することを可能にする地域拠点を通じて、重要な地域圏で MIHARI ネットワークの存在感を確立させる。
- コミュニティの当事者意識を高め、自主的な資金集めを増やし、国レベルでの注目度を高めることにより、本ネットワークの体制と持続性を強化する。
- 長年にわたり、LMMA および MIHARI ネットワークの財政的な持続可能性を確保するために、選択肢を検討する。

www.mihari-network.org



MIHARI に所属する LMMA の地図